

# AsiaWave

**vol.173**

**2**  
**ラオス写真館**  
**広田直樹**  
 ラオスの美女を撮るには

**5**  
**特集 新春座談会2**  
**インド、民俗の秘奥と近代化**  
**黒川妙子**  
**岩谷彩子**  
**小西公大**

**16**  
**Life&Culture**  
 ラフマン・愛  
 今年の選挙を占う  
 中国タクラ  
 日本と東南アジアを繋ぐ食文化  
 亞洲茶みつほ  
 映画「子供の情景」  
 フラステイック・シティ  
 中川昌俊  
 パレスチナ・ガザ地区  
 停戦宣言も再び戦闘に



撮影：岩谷彩子

## 商業移動民ヴァギリ

岩谷彩子

インドには、500以上もの移動しながら生活するコミュニティがいるという。そのひとつが、インドの北西部から南部にかけて生活している商業移動民ヴァギリだ。彼らは狩猟採集と行商にたずさわりながら、インド国内で移動生活を送ってきた人々であり、北西インドからヨーロッパへ移動していった「ジプシー」(ロマ)の「イトコ」ともいわれている。

ヴァギリは、現地の人々によると「ひと目で区別ができる」という。商品でもある派手な首飾りを身につけ、刺青をほどこし、男性はヴァギリ語で「ルンバル」と呼ばれる布を頭に巻いている。女性は最近ではサリーを着る人が増えているが、以前はひだが多くて丈の短いガグロと呼ばれるスカート姿が特徴的だった。ときに彼らは動物を連れて歩いている。見世物として格好なのはサルだ。野山で捕まえてきて、簡単な芸を仕込む。しかし近年、動物の捕獲がむずかしくなっている。野生生物保護法の強化、そして定住化政策：動物や自然と共存してきた彼らの生活は変化しつつある。

写真は南インド、タミル・ナードゥ州にて。ヴァギリの夫婦。娘二人はすでに嫁いでいる。男性の胸にはシカを追いかけるトラの刺青。

(特集の新春座談会を参照)

# ラオスの美女を撮るには

## 広田直樹 (ワーチエン) の ラオス写真館



ボンサリーのブンヌアで出会ったラオコーの女性です。頭の飾りを触らしてもらいましたが物凄く重かったです。

ニョージョン (モン語でこんにちは) ! 今月も美女の国ラオスを紹介するためやってきました (笑)  
さて、今回は「ラオスの美女を撮るには」って勝手にテーマを決めちゃいました。実は、少数民族の美女を撮るのは難しいんです、何故なら彼女たちは、ほとんど昼間は山中の畑に働きに行ってるので村にはいません、おまけにとってもシャイなので、カメラを向けても逃げちゃいます。





ボンサリーと中国との国境に暮らすローローポーのムーフアちゃんです。ローローポー独特の頭飾りをセツトするところを撮らせてもらいました。しっかりとカメラ目線です(笑)

そこで、どうするかというと、まずは村のオヤジ連中とラオス酒をたらふく飲んで仲良くなり村に泊まり込み明け方と夕方を狙うのです。当然ズームレンズで隠し撮りなんてしません、50mmか80mmで正面からバッチリです。「ネエちゃん可愛いね、撮らせてよ」ってな感じですよ。もうひとつのチャンスはお祭りです、有名なものは、モンの鞠投げブンキンチアン、ラオスの少数民族は各々の暦でお祭りをやりますから、冬に山岳地方に行けば出会える可能性は大です。この時は、お祭り気分なので、彼女たちも気持ちよく撮らせてくれます。ってなことで撮れた美女写真を見て下さい。やっぱり、ラオスは美女の国でしょ(笑)。



ルアンパバンでのモンの鞠投げお祭りブンキンチアンで出会った少女です。ちょっと悪そうな三人組でプイプイ言っていました(笑)お化粧も綺麗に決まっています。



中国国境の村からムアンシンに移住してきたローローポーのアコチュンちゃんです。最近では観光客も彼女の村には来るみたいです。美少女アコチュンに会えるかもです(笑)



同じくブンキンチアンでの一枚です。友達の友達なんで「ちょっと私たちも撮って」って仲良くやってきました。

ルアンババンでは有名な日本語ガイド、イエンの珍しいモン衣装です。



僕ワーチェンです。怪しいです(笑)



子育てのためにアカの衣装を脱いでもってますが、ムアンロンの美少女ヤットウの母子像です。キレイな人はキレイです(笑)



# インド、民俗の秘奥と近代化

## 黒川妙子 + 岩谷彩子 + 小西公大

前回に引き続いての座談会後半は、インド社会周辺の部族の生活の神秘と、インド都市部の西洋化の様子がメインテーマとなった。インド社会の複雑さを表すように、会話は自由奔放に展開し曲折し放浪する。

### 発展を支える潜在能力

**岩谷** ヒンドゥー・ナシヨナリストと

いうのが1990年代は政権を取っていて、かなりカースト間の対立とかコミ

ュニテイ間の対立も激しかったんですけど、そういう時代じゃないみたいになっ

ている。むしろ国を挙げて経済成長を目指すぞう、という機運が強い。でもだから

ユニテイ間の対立が解消されたわけではなく、今回のムンバイの事件もパキスタ

ンとの関係がどうしても背後に出てきた

り、足を引っ張られている感じなんです。

インド人としては、なんでこんなことが

今起こるんだという……

**小西** 近年は、パキスタンと連繫して世

界に向かっている、という気運もある

のに。もともとカシユミール問題（印パ分離立

た。インド北部カシユミール地帯が、そこから燃つ

ている状況がまだにある。逆にパキス

タン側は、インドの近年の発展ぶりに対

する嫌悪感を強めているのかもしれない。

それでインドの発展の象徴であるム

ンバイを狙うと。

**岩谷** でもあれ、前回のテロはデリー、

デリーの前はグジャラート、といろんな

ところで散発的に起きていて、前から次

つたんですって。でもいまははっきり

と、インドだけ。経済界がパキスタンは

相手にしない。インドはほとんど経済が

のびて、他方はアフガンやイラクでの戦

闘にまぎこまれ政治的にも混乱している

から。90年代は国際識字年というのがあ

って、インド政府は識字率を上げようと

熱心にとりこんでいました。でもパキス

タンはそれほど熱心にとりこんでいるよ

うには見えない。一部の大地所有者が

汚職にまみれた政治家として権力を握つ

て、大衆はみんな無知であつた方がいい

と思つているようにさえ見えます。だか

ら勝手に識字率の改竄とかもできるので

しょう。この前テレビ番組でやつていた

のは、どうやって農村に洗剤とか石鹸を

売るかという話で、普通の奥さんたちを

雇い販売員として働かせるためには基本

的な読み書きや計算ができなければ、な

りたらないですよ。インドはそれが出

来る。

**小西** 帳簿をつけることができる。

**黒川** 極端に低い識字率のところもある

けれど、でもこれまでの努力の蓄積も一

つの力になつている。グジャラート州で

は、中学とか高校に進学する女の子には

自転車をおげること、進学を助けると

いったようなそんなサポートもあつたよ

うです。

**岩谷** パキスタンの場合は女性には教育

を受けさせないというのはムスリムだか

らということがあるんですか。

**黒川** あるんでしょうね。私もパキスタ

ンの問題とかそんなによく知らないけれ

ど、基本的には法律がすぐく込み入つて

いる。近代法律だけじゃなくて、イスラ

ム法とか長老が決める慣習法とかなんと

か、4つぐらいあつて、あるケースはど

の法律に照らし合わせて裁くのかという

のが複数の法律体系が存在するので、外

から見るとわかりにくいのです。

**小西** ダブルスタンダードどころではな

いですね。

**黒川** だから人権問題というのも考えら



左から、岩谷彩子、小西公大、黒川妙子の三氏

**岩谷彩子 (いわたに・あやこ)**

1972年生まれ。京都大学大学院人間・環境学研究科博士課程修了(人間・環境学博士)。広島大学大学院社会科学研究所・准教授。1996年から、インドの商業移動民ヴァギリを中心に、世界で「ジブシー」と呼ばれている人々の人類学的研究にとりくむ。主著に『夢とミメーシスの人類学』(明石書店、2009年刊行予定)。

**小西公大 (こにし・こうだい)**

1975年生まれ。日本学術振興会特別研究員(首都大学東京)。インド北西部、パキスタン国境付近に広がるタール沙漠をフィールドとし、トライブや多様な芸能集団の織り成す社会的ネットワークの研究を進める。主な業績は、『「トライブ」と社会関係』(『社会人類学年報』33, 2007)、『神と人/人と人を結びつけるもの—タール沙漠の諸芸能集団をめぐる—』(鈴木正崇編『神話と芸能のインド』山川出版社、2008)など。

**黒川妙子 (くろかわ・たえこ)**

南アジア芸能研究者。国際識字文化センター(ICLC)事務局長。恵泉女学園大学非常勤講師。「南インド・タミルナードゥ州・ダリットの太鼓文化『タップ』研究」で博士号取得。ユネスコ・アジア文化センターで長年アジア太平洋地域の文化事業、識字教育などに携わる。タイ山岳民族NGOに勤務後、インドにて伝統民衆芸能等の調査・研究を行う。

れない。

**岩谷** インドの可能性はそこで、民主主義が普及している世界最大の人口を誇る大国です。その意味で世界でもすぐく期待されているんです。単に人口が多いだけじゃなくて、民主主義的である。それで企業の進出もすすんでいるんです。

**小西** 沙漠の真ん中でも、子供たちが、日本でいう小学校3年生から英語を学び始めるんですから。びつくりします。

**岩谷** 日本と比べても英語はずっと話せますよね。

**黒川** そこが違いますよね。やっぱりきちんと教育をさせなきゃということも普及している。ヴァギリの人たちは学校はいくの？

**岩谷** 行きます。長くて中学校程度ですけど。

**黒川** それはすごいことだよ。

—インドの近年の躍進には、シン首相のリーダーシップの力が大きいのですか。

**岩谷** ありますね。交渉能力が非常に優れていると思います。

**小西** 頭脳明晰ですね。

**岩谷** やっぱり経済学者ですから、もとも。

**小西** 経済学で博士号をとっています。

**黒川** 人望が厚くていろんなものを越えて共通に支持される感じ。

**小西** 彼がシク教徒であるというのも大きいのではないのでしょうか。つまりヒンドゥーやムスリムなどのマジョリティに属していなかったということが、求心力を得ることに繋がったという側面もあるかもしれない。

**岩谷** でもよく首相になれたよね。

**小西** それだけ財務省での実績があった

ということでしょう。

**岩谷** だつて暗殺とかともシク教徒はかわつてきたわけじゃない、インディラ・ガンジーとか。

**小西** ああ、そうですね。

**岩谷** 彼はパンジャブ出身なの？

**小西** パキスタン側のパンジャブ地方の出身ですね。分離独立でインド側に移住した。

**黒川** シク教徒の役割というのは確かにあるんだろうね。シク教徒の乞食っていないんですって。グルドワラっていうのがシク教徒のお寺なんですけど、各地にあつて、食べ物がない人は自由にそこに行つて食べられるんですって。だから乞食がないと。

**岩谷** シク教徒の人口って何人ぐらいでしょうか。

**小西** 少ないと思いますよ。

**岩谷** 少ないでしょ。ジャイナ教徒よりも少ない？

**小西** 同じくらいでは？

正しくは、シク教徒約1900万人に対し、ジャイナ教徒は全人口の約0.2%の割合

**黒川** 人口的には少ない民族がいろんな役割を担う。この人が出てくればとりあえずみんながまとまるとかあるんですよ。ジャイナ教徒の役割は？

**岩谷** やっぱり商人ですよ。出版業とか。平和主義を唱えるジャイナ教徒は、徹底的に殺生を避けるんですよ。

**小西** ジャイナ教徒の空衣派無所有を守る厳格主義を説く派といわれている人々が、全裸で歩いているのを見かけることがあります。

**黒川** どこで？

**小西** 街中で。

**岩谷** さすが。北西インドは違う。

**小西** びつくりしますよ。全裸なんです。

**黒川** 冬も？

**小西** 冬があるかどうかわかりませんが。

**岩谷** 行ですか、それは？

**小西** それが彼らの厳格なライフスタイルなんです。

**岩谷** 女性はしないの？

**小西** いません。

**黒川** 何歳ぐらいですか、ちなみに。

**小西** 汚れているのでよくわかりませんね。

**黒川** なんで裸なの？

**小西** ジャイナ教の、徹底的な無殺生・無所有の思想からでしょう。

**岩谷** そういふところ好きだな、イン



ニューデリー南部のマーケットの風景。映画館を中心に、カフェ、レストラン、バーなどの飲食店や、ブランド品、電化製品などを扱う店舗が軒を並べる。消費生活の興隆を肌で感じることができる。

ドの。(笑)

**小西** 想像を絶しますね。

**岩谷** いくとこまでいつちやう。

**黒川** 実践するとうとうところがすごいね。観念であるのとギャップがない。

**岩谷** 気にしてたら宗教じゃないということになるんじゃないですか。

### 都市部の近代化の進行

——日本では生活環境の画一化という現象がありますが、インドは世界に開いていてもそういうことはないんですか？

**岩谷** ありますよ。西洋化・近代化はどんどん進行していて、お酒とかも飲み始めて。

**小西** 特に都市部は顕著ですね。

**岩谷** インドでは、お酒を飲むことは後ろ指をさされることなんです。だからみ

んな隠れて飲んでます。

**小西** ヒンドウ教的な発想の中では良くないこととされる。

——禁止ではないけれども悪いということですか。

**黒川** 一応原則的には教義ではないです。道徳的に悪い。

**岩谷** 規範的に望ましくない。

**小西** 肉食もそうですよね。だから酒を飲んで肉を食ったりするのは穢れた連中だ、という発想がある。

**岩谷** 欲望に身を任せて自己をコントロールできない人間は低く見られるんです。

**小西** そういった価値観も、近代化や都市化の影響を直接受けているところでは、大きく変貌しています。公然とお酒が飲めるようになったり、カップルが手をつないで歩いたり。

**岩谷** ムンバイやデリーは本当にそういう地域ですから。

**小西** 調査地である沙漠エリアでは、現在でもバルダーといわれる習慣が残っていて、女性はある程度社会的に隔離されている。夫以外に顔を見せてはいけないとか、一人で外へ出かけてはいけないとか。そういうところから、たとえばムンバイに行ったりすると、ミニTシャツ、ミニスカート

の女の子が男性をひきつけて歩いていたりするので、そのギャップにびつくりします。でもかたや、

ポリウッドスターのサルマン・カーンが公衆の面前で女優さんとキスしたというのが問題になって、連日新聞を賑わす、なんていうこともあります。

**岩谷** それは俳優だからでしょ。

**小西** そうです。でも俳優が公衆の面前でキスすると大問題になる、といった世界も残っている。まだアンバランスな感じですよ。移行期という気がします。

### インド結婚事情

**小西** 最近、インドの人々の中でモノに対する執着が出て来ている。ソニー製じやなきや駄目とか、車はトヨタがいい、といったような。

**岩谷** あと、恋愛結婚の増加ね。普通はお見合いなんですけど、徐々に恋愛結婚も入って来ていて、それがトラブルの種類になったりする。駆け落ちとか自殺とかも起きています。

**黒川** 恋愛結婚をするということは大きいんですよ。

**岩谷** そうなるとカーストを越えちゃうんですよ。

**小西** 近年まではアレンジド・マリッジ親の取り決めによる結婚が基本で、父親が自分の娘なり息子の相手を選ぶ。その家なら大丈夫だとか、同じカーストだからどうだとか。

すべてをアレンジして、サガイーと呼ばれる婚約式を行って、初めて新郎新婦がお互いの顔を見る、というようなことが基本的には行われていた。今では比較的、恋愛結婚が多くなってきている。も

ともと不可触民カースト出身だけど、リザヴェーション留保制度などで経済的地位を向上させてきた女性と、高位カーストに属している男性が結婚したりするケースもみられます。女性が「下位カースト」の方がスムーズな場合が多く、上昇婚などと呼ばれる。男性がダリット出身であったりすると、やはりまだ反発する家族は多いでしょう。

**岩谷** 胸が痛むね。

**小西** 本心に辛いですよ。

**黒川** 実際には、宗教が違う結婚の場合、子供をめぐる問題となかなか難しいですよ。夫婦間の場合は、「お互いに尊重しましょう」、「あなたはヒンドウのやり方でどうぞ、私はキリスト教のやり方で」、となる。でも子供となると、キリスト教の母親はヒンドウ教徒の儀礼を子どもに施すのは絶対に嫌という、だ

けど父親側のヒンドウの家族は、それなしにどうやって子供の安全や将来が保証されるのと考えて。どちらも折り合えない。さっきのマンガニアル調停から知恵をもらったらいいのかもしれない。

**小西** やはり政治的なものと深く結び付いている。宗教的対立とか国家の再配分の問題などは、深く政治に組み込まれている。そうすると、なかなか解消が難しいと思います。みんなが豊かになれば、もう少し宗教間やカースト間の関係に対して寛容度が増すのかもしれない。今はまだ多くの人々が貧しいから、パイの

取り合いになり、政治的思想に取り込ま



れていく。

**黒川** でも恋愛結婚って続くのかなあ。だって財産を持っている人たちは財産を保持するためにそれを果たせる人と結婚したい訳ですよ。例えばダリットの、しかも土地も財産もない人が大挙してこの財産がほしいとかいったら大変だから。そんなことがおこるのを防ぎたいから、恋愛はしても結婚となるともちろん違うというのが一般的なような気がします。

**岩谷** カーストというのは資源のプールなんです。だからそれを他のプールに回すことはないという考え方でやって来ているんで、それをほみでるのが恋愛結婚であり、それを促進するのが近代化なんです。

**黒川** だからどんなに、奥さんはドイツで勉強しました、旦那はアメリカです、といつてリベラルに振る舞っていても、彼らはやっぱり自分たちの家の財産を守るために見合い結婚して、という感じですよ。だから経済的な状況からしたらそれが一番安全。そういうシステムが全部壊れるというのは、あり得るのかな。

**岩谷** 在外インド人でもやっぱり同じカースト内で結婚相手を探すんです。インド本国から連れてきて。だから今の段階だと、場所が変わってもカーストは再生産されるように出来ている。外国人との結婚もあまり好まれないです。

**小西** 外国人はアウトカーストと言われますね。なんだか得体の知れないアウトカースト。

**岩谷** 社会的上昇を図りたい人が乗ってくる手段として外国人との結婚があつて、インド人の貧困層と外国人との結婚はけっこうあるんです。

**小西** 岩谷さん、調査中は大変じゃないですか、求婚されたりして。

**岩谷** サリリーを着てタミル語をしゃべるんで、あまり日本人だとは思われないです。ネパリー（ネパール人）だと思われているみたい。

**小西** そう、ネパリーとは言われます。

**黒川** ネパリーと結婚したいとか……

**岩谷** ないです。インド人にとつて、ネパリーは貧乏なイメージですから。出稼ぎにインドに来ていてネパリーも多いです。外国人といつてもランクがあるんです。

**小西** 近代化が極度に進行した場合、たとえば海外在住が長く、先進国的な感性を身に付けた場合、カースト的なこだわりがなくなっていく可能性もありますね。

**岩谷** 私はそうは思わないな。それでも家族を気にする。

**小西** でもインド人と日本人の国際結婚は上昇しているのでしょうか。

**岩谷** そうです。それは貧しい層が多い。あるいは超エリート層かもしれないけど。

**黒川** そういう人たちは関係ないよね。

**岩谷** でもたとえばフィリピン人とかと比較したらやはり内婚率はめちゃくちゃ高いでしょう。それを支えているのはカースト制度です。

### ヴァギリの生活慣習

**黒川** ヴァギリの結婚って、タミル人との結婚はないの？

**岩谷** ないです。結婚どころか、性的関係を持っただけで神様に謝る儀礼をしないとイケないんです。

**黒川** タミル人が？

**岩谷** いえ、ヴァギリが。穢れたということになるんです。特別な言葉もあつて、「マルホチヨード」、「非ヴァギリとやつたやつ」という、蔑称がつけられる。さらにそれがいわゆる不可触民とされてきた人々を、彼らは一括してデディオと呼んでいるんですけど、彼らと性的な関係をもつたらさらに社会的にはひどいステイグマがはられる。だから、私はもちろん、タミル人もあり得ないという感じ。そういう関係を持つことは、墮落なんです。

す。だから結婚はヴァギリ同士です。

**黒川** けれど人口としては多くないのでは？

**岩谷** でもかなり多いですよ。タミルナードウ州でも最低5万人ぐらいはいるんで。それで、結婚できる集団と結婚できない集団（キョウグイ）と二つに集団が分かれていて、お互いに女性を交換し合っているような。

**小西** 面白いのは、ヴァギリ社会の人々は歴史的に被差別民としてであるとされるにもかかわらず、自分たちは被差別者であることを内面化して卑屈になるといつた側面があまり見受けられない。逆に、「他者」と接触することで、ヴァギリたち自身が穢れる、という感覚すらありますよ。呪物などもそうです。

**岩谷** タミル人は呪術なんて信じて、馬鹿だな、みたいな。

**小西** その辺のヴァギリのアイデンティ



スリーランガムで



ファイの仕方というのが、僕がみている不可触民と言われている人たちと本当に違うんです。

**岩谷** 全然違いますね。

**小西** プライドの高さというか、自分たちの誇りをもっている。でもMBC (the Most Backward Classes)

(Scheduled Caste)にも指定階級(Scheduled Tribe)にもあてはまらない社会・経済的にも後進とされている人々を、SCはほどではないが種族が適用に分類されている。

**岩谷** 彼らは、自分たちがMBCで不利益を被っているということ自体も知らないんです。私がこうだよと説明すると、初めて怒る。(笑)

**小西** でもそれで経済的に回っているということでもすもんね？

**岩谷** 回っていないですけどね。自転車操業ですよ。人からお金を借りては踏み倒し、みたいなのをぐるぐるやっている。

**小西** ビール社会と状況は一緒ですね。明日の食事をどうするかといったような。ギリギリのところをやっている。

**岩谷** 蓄積してもどうなるかわからないから、そもそも蓄積しないんです。今日稼いだものは今日使う。貯金という概念はほとんどないです。

**小西** そうなんです。なんでだろう。狩猟採集民的な発想なのでしょう。

**岩谷** それはあると思う。

**小西** たとえば、困窮しているにもかかわらず、小金が入ると茶葉と砂糖を買ってくる。チャイを飲みたい、というわけなんです。ところが、次にいつお金が入ってくるかわからない状況で、使用する茶葉



留学していたネルー大学(JNU)の遠景。鬱蒼とした森に、各研究科の校舎が点在する。敷地が広いため、校内はオートリクシャーやバイクで移動する。クジャックのみならず様々な野生動物が生息している。

や砂糖の量を少なめにするという感覚がない。溶けなくて飽和状態になるくらい砂糖を入れる。べたべたに甘くなるんです。次にいつ砂糖がなくなるかわからないのに。少しずつ節約しながら飲むべきだと思んですが、彼らは違う。甘いチャイでなくては飲む意味がない、とでもいうような。

**岩谷** 将来のことを考えてないのよね。

**小西** 目先のことばかりなんです。稼いだお金も、ちゃんと貯蓄して新しいことに投資して次に向う、という感覚がない。「宵越しの銭は持たねえ」といったような、江戸っ子的な気質がある。お金が入ると飲んで騒いでしまつて、明日の食事をどうしよう、となる。こういう感覚は非常に分かりにくい。

**岩谷** 訊いたことがあるんですけど、こういう明日のこともわからない生活をずっと続けていきたいの？と訊いたら、うん、これでいいと言っています。スリルがあるからつて。(笑)

**黒川** 退屈な人生じゃないんだ。

**岩谷** 公務員になつて安定した生活を送りたいとか全然思つてない。

### 地方の食べ物あれこれ

**岩谷** 私、北インドを旅行したときに、「文化」があるなと思つたんですよ。南インドはヒンドゥー寺院ばかりなんです。北に行くイスラム建築が美しくつて。

**黒川** さすがここにはムガル帝国があつたんだと、町のいたるところにある遺跡をみても実感しますよね。

**岩谷** 文明を感じます。南はそれよりも植物とかのほうで跋扈してるんで。

**小西** ヴァギリは伝統的な芸能を持つていたりするんですか。

**岩谷** あつたんですけど、今は廃れていきます。なんでも楽器にして、踊つたり歌つたりしながら物乞いをしてたんですけど、なくなつちやいました。

**黒川** 先月南インドから来日したシャクティのグループは、タミルナドゥ州各地の例えば漁民、山の民など、いろんな人たちの踊りを習つて来て自分たちでも舞台でおどるのね。そのうちの一つが、狩

猟民の人たちが踊つていた踊りとか言つてました。

**岩谷** ヴァギリはナリクラヴァルと呼ばれています。ヴァギリという自称は誰も知らない。「ナリクラヴァル」とは「ジャツカルを捕る人たち」という意味で、ジャツカルつてヒンドゥー教徒は食べないものなんですけど、あと、ちよつとずる賢い、そういうニュアンスがある。ジャツカルを食べることが彼らのアイデンティティの一つになつてるんです。

**黒川** ジャツカルつて何に近いの、犬？

**岩谷** 狐。犬と狐の間ぐらい。しょつちゆう食べてます。猫も食べます。

**小西** スパイスで煮込むんですか。

**岩谷** はい。カレーです。

**小西** 臭みはある？

**岩谷** そうでもない。私は孔雀が一番好きでした。

**小西** ああ、それは聞いたことがある。僕がデリーで留学していたとき、寮にはインド北東部のトライブの学生がたくさんいて。ネルー大学の周辺は鬱蒼とした森なんです。孔雀が空をバサバサ飛んでいるんですよ。それをどうも捕つて食べているんじゃないか、という噂がありました。

**岩谷** 孔雀はインドでは神様の乗り物なんです。食べたりとか公にはあり得ないんですが食べるんです。孔雀、まるやかな味です。

**小西** おいしいみたいです。一回ちよ



タリット文化の象徴タッパ太鼓を新しい芸能に発展させた  
タミルナドゥ州中部のレッディパーヤム村の人々

つと覗いて食べさせてもらおうかなと思  
ったんですけど(笑)。食生活は面白い  
ですね。

**岩谷** でも南インドはあまり困らなかつ  
たですよ。

**黒川** お米を食べるからね。おかずがご  
飯をおいしく食べられるように作られた  
おかずだから。

**岩谷** わかります。北インドへ行くと本  
当にしんどいもの。小麦文化は。

**小西** 小麦文化は辛いんです。イドリーと  
かあるじゃないですか。チャパティより  
もイドリーがあればまだいいんですけ  
ど。

**岩谷** チャパティのあのばさばさ感はな  
んなんですか。

**黒川** あれは絶対にそばで給仕してくれ  
る人がいるから、おいしく食べられるも  
のだよね。

**岩谷** その場ですぐにね。冷めたらちよ  
つときついですね。

**小西** だから女性がサーブさせられるわ  
けです。男が最初に食べて、という。小  
麦粉のチャパティならいいんですけど、  
僕の調査地は小麦粉も買えない貧しいと  
ころで。主食がバージュリー(トウジン  
ビエ)といってヒエの一種なんです。厚  
手にのばしたものを焼いてばりばり食べ  
る。

**岩谷** カレーはないんですか？  
**小西** 調査世帯にはほとんどありません  
でした。

**岩谷** ええー！  
**小西** 生タマネギを潰して、チリをつけ  
て食べる。

**岩谷** きつそう。それしかないの？  
**小西** それしかないんです。だから一ヶ  
月ほど調査世帯に滞在すると、13キロほ  
ど痩せるんです。

**岩谷** ダイエットにはなるけどね……  
**小西** とんでもないですよ。

**黒川** 南インドはそれがないね。  
**岩谷** ありえない。

**小西** これは、ビール社会という特殊な  
状況です。沙漠のど真ん中で、電気も水  
道もガスも何もない。

**黒川** 畑もなにもないの？  
**小西** 野菜は栽培していません。

**岩谷** お金出しても手に入らないの？  
**小西** 30〜40キロ離れた都市部まで行っ  
て買ってくる訳です。僕が買いに行くん  
だけど、大量に買い込んで、これくら

いあれば一週間は持つだろうと思つた  
ら、二日間で全部食べちゃう。その二日  
間はカレーと小麦粉のチャパティが出ま  
す。その後は、タマネギとヒエのチャパ  
ティの生活です。

**黒川** でも貯めておいて計画的にという  
のはやっぱり農業していないと無理でし  
ょう。計画的でない作物が採れないと  
いうニーズがあるから。

**小西** そうですね。宗教というよりも狩  
猟採集民的な発想かもしれません。  
**岩谷** なくなったら調達してという繰り  
返しでもんね。

**小西** 食べる肉がなくなると、「狩りに  
行くか」といったような。そういう世界  
だったのかもしれない。貯蓄という考  
え方がない。

### 悪をも抱擁するコミュニティ

**黒川** でもいま物価が高いじゃない、そ  
ういう人たちは大変でしょうね。狩りは  
駄目とか、採集する環境は確実に悪くな  
っている、自然もなくなるし。

**岩谷** 貨幣経済に巻きこまれて貧富の格  
差が生まれていて、呪術も跋扈していま  
す。

**黒川** そういう図式なわけね。  
**小西** 格差が生まれると妬みが出てく  
る。

**岩谷** そう、助け合わなくなっちゃうん  
ですよ。貧しいほうが助け合ってます。  
格差が激しくなると、自分だけお金持  
ちになろうという人が増えてきてしまっ

て、それが更に反感を呼びという悪循環  
になる。それがいまインドで起こってい  
ます、いろんなレベルで。これから危な  
いよね。助け合いがなくなっていく。

**小西** ローカルなレベルでもそうです  
ね。

**岩谷** 今だと、喧嘩が始まるとみんな仲  
裁に入るんですよ。そういうのもなくな  
って、日本化してきて、わけのわからな  
い犯罪も増えてくるでしょうね。いまだ  
と、インドを旅したことがある人とよく  
言うんですけど、誰が悪い人かわかるん  
ですよ。顔に出ているんです。この人、  
悪人だろうという。

**小西** 本当に分かりやすいです。何故み  
んな騙されてしまうのかと。悪人は見る  
からに悪人ですから。

**岩谷** こいつは胡散臭いなというのがい  
る。  
**小西** 話してみると、やつぱりワルだつ  
たと。人のいい人間はきれいな顔をして  
いる。目がきれいだったり。ヴィジュア  
ルでわかります。

**岩谷** それがわかりにくくなるでしょ  
うね。無表情になって。  
**小西** 裏表が内部に生まれてくるんでし  
ょう。本来はストレートですからね。お  
れは悪いやつだ、と。

**岩谷** 悪いやつでもなんとか生きてるよ  
ね。  
**小西** 生きています。完全には排除され  
ないんです。村落レベルで。どんなにワ  
ルでも。



**岩谷** 悪いとわかりつつも関係を持って  
いる。

**小西** 村八分みたいなのはあまりないで  
すね。あれは面白い。

**岩谷** カシユミール紛争とかはどうなん  
ですか、あれはやつたらやり返せですけ  
ど。

**小西** あれは流血の応酬ですね。

**黒川** でも都市はそうしたつながりの存  
在は厳しいですよ。自己防衛がまず先  
にたつ感じですよ。昔インディラ・ガンジ  
ー元首相が殺されたあとに友人が目の前  
で、普通のシク教徒の友人たちが集団暴  
行をうけているのを見たそうです。こう  
した暴力の記憶はどんどん蓄積している  
ようですよ。

**岩谷** そういう時だったんですよ。非常  
事態宣言も出たような時だし、暴動が起  
こった前後は疑心暗鬼になって大体そう  
いうふうになります。

**小西** 打ち壊しなどが起きますもんね。  
関係ないところまで完全に破壊してしま  
う。なんなんでしょうね、あれ。

**岩谷** フラストレーションでしょう。

**小西** 暴動が起きると、商店街は完全に  
閉ざされてしまう。

**黒川** 大略奪の対象になって、盗られる  
もんね。

**小西** ああいう群集心理はすごいです  
ね。なかなか日本では味わえないような、  
すごい暴動が起きたりする。

**黒川** それだけフラストレーションが蓄  
積されている程度も大きいのでしょうか。

### トライプの儀礼

**黒川** 何食べたんですか、岩谷さんは。

**岩谷** ヴァギリはすごく料理が上手で、  
毎日おいしかったです。ラッサムとかよ  
かった。野菜も肉も魚もたまには食べる  
し。

**小西** 電気は来ているんですか。

**岩谷** 私がつきました。電話も通して。

それ全部たかられたわけなんですけど、  
これはアヤコのためだからというんで、  
家の増改築もはじめちゃったりして。調  
子に乗ってどんどんいきますよ。

**小西** 羨ましい。僕は泥作りの家の六畳  
間みたいなところに十二人で寝てます。  
家族全員。川の字状態です。

**岩谷** プライバシーとかないんですか。

**小西** 全然ないです。個室ももらってな  
いし。

**岩谷** 持ち物は？

**小西** 持ち物は全部自分のバッグにつめ  
て。

**黒川** じゃあバッグを持ってかれたら終  
わり？

**小西** 終わりです。でも盗られませんが  
した。家族だから、と守ってくれて。

**岩谷** 私なんか盗られますよ。

**小西** 懐中電灯を盗られたことはありま  
した。その世帯の子供だったんですけど。  
「誰だ！」って探して、最終的には見つ  
かった。

**岩谷** うちなんて、子供のせいにします  
から。

**小西** ひどい！

**岩谷** 外とかには寝ないの？

**小西** 夏の間は外でも寝ます。チャル  
パーイーという編みこみ式ベッドで寝た  
り。あとは屋根で寝たり。

**岩谷** 蚊は出ませんか。

**小西** 蚊はいないですね。沙漠だから。  
サソリが出ます。それだけ怖いですが  
しよつちゅう出ます。

**岩谷** 死ぬ？

**小西** 危ないことになります。でも隣に  
……隣と言ってもぼつんぼつんとある感  
じですから500メートルぐらい離れて  
いるんですけど……

**岩谷** なんでそんなに離れているの？

**小西** それが彼らのスタイルなんです。  
でも行き来は頻繁に行われています。駱  
駝など使って一日に何十キロも移動しま  
す。

**黒川** 女の人は動かないんですか？

**小西** 女性は基本的に家にいます。でも  
近隣の女性間のネットワークはあるんで  
す。男性はもつと広範囲に渡って動く。

**岩谷** 水はどうしてるんですか。

**小西** 水は近くの池のような水たまりか  
ら運びます。

**岩谷** それ飲むの？

**小西** はい。

**岩谷** ええ！ 大丈夫ですか。

**小西** 大丈夫。茶色い水でしたけど。  
**岩谷** 茶色の水のまま飲むんですか。お  
腹壊さなかったんですか。

**小西** 一回もなかったですね。

**岩谷** ええ、それあり得ないでしょ。普  
通の人は、ない。

**小西** 坂田先生坂田真二、黒川さんと共ににめちやく  
ちや怒られました。

**岩谷** 危ないよ。

**小西** でも二年それをやつたんで、大丈  
夫かなと。

**岩谷** 雨水でしょ。やばいよ。

**小西** あまり良くないですよ。

**岩谷** よく元気で。すごい。ただ者じゃ  
ないです。

**小西** 布などで漉して、大きなゴミはと  
りますけど。

**岩谷** いやいや、そういう問題じゃない。  
たぶん砂漠で暑いから、いいんだ。

**黒川** 死んじゃうんだ。

**小西** 危ないかな、と思いつながら飲んで  
ました。それでサソリの話に戻りますけ  
ど、そのお隣さんが、リネージゴッド（氏  
族神）直属の呪術師、サソリ専門の呪術  
師だったんです。だから「刺されても大  
丈夫だよ」と言われてましたけど。トラ  
クターやバイクで、その呪術師のところ  
にサソリに刺された急病人がよく運ばれ  
ていました。

**岩谷** 実際に毒出しをするんですか。

**小西** やらないですよ。砂糖とか塗り付  
けている。そしてターバンに、氏族神を  
象徴する赤い布を織り込んで巻いて、足  
下の砂を掃いているんです。それが治療  
なんです。

**岩谷** それでよくなるの？

**小西** 患者は一時間ぐらいすると、「お



タール沙漠のソリ毒専門の呪医。女神を憑依させ、その超越的なエネルギーで「治療」を行う。

お、痛くない！」などと言って平気な顔をして元気になる。運ばれてくる時は4人ぐらいいに支えられてきた患者が、です。僕が刺されたら効くんだろうかと、恐怖を感じましたよ。

**岩谷** わかります。彼らには効いても私には効かないかもしれないと。

**小西** 効かない可能性はある。疑いを持っていたから。こんなんでは治るのかという。

**岩谷** でも儀礼とかに参加していくなかで、彼らの信仰が乗りうつるときがある。

**小西** ありますね。だんだんそれが本当らしくなってくる。

**岩谷** 儀礼をしたにも関わらず家族がみんな病気になるっちゃったことがあって、そんなはずはないんですよ、彼らの信仰によると。みんな口々に理由を言い合っているんですけど、私は私のせいだと思っちゃって。女であること、女が神様の

儀礼に参加したから怒ったんだと。あと、生理中だったんですよ。それは致命的で、言えなかつたんですけど、そのせいかなあと。

**小西** 儀礼がうまく進行しなかつたりすると自分が悪いと思ってしまうですね。山羊に憑依させる憑依儀礼があるんですよ。トライプのビールの人々が全員で手を握って円形を作る。その真ん中に女神の祠があつて、円の内部に山羊を放す。

みんな山羊に対して呪文みたいな言葉をかける。山羊は円の中でうろうろして

るんですが、あるとき突然祠の前で止まつて動かなくなり、そのあとに体を震わ

せて、それが止まらなくなるんです。この動きが、神が憑依した証なんです。その後大きな刀を持って来て、一気に首を

切り落とします。まだ生きているものだから首だけ動いていて、血がばつと飛び

散る。

**岩谷** 南インドでもそれやります。ちよつとちがうのは、水をかけるんです。震えの仕方によつて、きた、と。

**小西** やつぱりそういうのあるんですね。

**岩谷** 一般的にやつてますよ。

**小西** 震えるというのは一般的なんですか。あんなのは見たことがないんで、なんで震えるんだら

う、本当に降りたのだろうか。と、**岩谷** 私なんかからすると、水かけたら寒いから震えるんだろうと思ひました

が。**小西** でも水かけてないんです。

**岩谷** それはちよつと違いますね。

**小西** それが降りなくて、2時間も3時間も待つことがあるんですよ。そうすると、自分のせいかなあと。

**岩谷** あと、神様の音とか、聞いたことあります？

**小西** 夜にひゅうつと飛ぶらしいんですよ。神様が飛翔して通りがかった時には、

チクロツチクロツと音がするんです。

**岩谷** 同じだ。飛ぶんじゃないんだけど、村を一周するといふので、アंकレットをして

音が出るんです。チャツチャツチャツ

ヤツて。聞いちゃつたんです。

**小西** 僕も聞きましたよ、真夜中に。

**岩谷** 聞きました。牛かと思つたの、最初。でも牛の首輪が規則的な音は出さな

いはずだと言われて、そうかもしれないと。すごく不思議。

**小西** 僕の調査地での体験の多くが共有されてますね。なんだか気味が悪い。

**岩谷** 対象が似ているんですよ。

つた。別のある日、深夜の2時ぐらいい目が急に覚めたんです。トイレに行こうかなと思つて外に出たらその音がするんですよ。

**小西** まったく同じ状況です。それまでそんな真夜中に起きたことなんてないのに、はつと起きるんです。そうするとその音がするんです。

**岩谷** そう、一緒！ そうなの。翌朝起きて、「こうだった」と言うと、俺も聞いたと。

**小西** 家族も聞くんです。普通に、「ああ、あれ女神さんだよ」といったことを言われて。

**岩谷** そして次の日に、夢を見ました。今度は多分夢なんです。それは人間が音を立てていたという夢を見る。だから理性では認めなくなつたみたい。

**小西** 特にヴァギリは夢見、夢語りが盛んですからね。

**黒川** 一番面白いのは、夢を解き明かす……

**岩谷** 夢を語るのが普通なんです。他愛ない夢でも全部神様の夢になつちやつて、神様の夢を見たから、じゃあ儀礼を

しましょうというところで、儀礼をして氏族共同体の規範が再生産される、確認する

ような儀礼になる訳なんです。夢に出てくる存在って、彼らが移動先で出会う

いろんなものだったりするんです。だから外部のものを自分たちの社会に転換して

持つてくるようなシステムがあるんじゃないかと思つていて、それが夢を通じ

てくる存在って、彼らが移動先で出会う





夢を語り合う

た社会実践だったり宗教実践だったりするといふ話なんです。たとえば非ヴァギ

リ女性が夢に出て来たらそれは神様ですよとか、あと動物とか、彼らの氏族共同体にとつての他者が夢に出て来たときにそれが自分たちの神様として翻訳されるんです。だから特定の神様の姿がある訳じゃないんです。だからたぶん最近の宗教対立もナニナニ教徒はこうだという形が決まっちゃうことが問題で、ヴァギリとかビールもそうだと思うんですけど、形を与えないでそれを全部口承伝統なんかで自分たちのものとして大切にしてい

く以上は対立って起こらない。  
**小西** それが文字化され、権威化されていく過程で、差別構造や権力的な政治性が出てくる。

**所有権確定から生ずる問題**

**岩谷** 絵でもそうかもしれないけど、形

にも基本的なインドって長い間口承伝統の国じゃないですか。歴史も大して残ってないような。そういうところであるんな異なる人たちが暮らして来たんだと思うんですけど、最近はそのがどんどん目に見えるものになってくる。

**小西** センサスが始まってからはカーソト集団自身が自分たちの族譜みたいなものを書き始めていく。自分たちにはこういう歴史・系譜があるんだ、と正統化していく潮流が生まれる。

**岩谷** そうすると対立が起こるんですね。

**小西** コミュニティの境界が明確になってしまふんですね。それまではすごく漠然とした混交があり、緩やかに分けられていたようなものが、新たに政治性が結び付くことによって明確な境界線が引かれていく訳です。

**岩谷** 彼らの神様も自分たちの神様だったのに、それがボーダーが引かれちゃうんですよ。

**小西** ヒンドゥもムスリムも、信仰が混在していたものだったのが、明確に分けられてしまったのが植民地期以降ですね。

**黒川** 土地をある特定の人が所有するといふ考えや習慣はなかったところでも、ある時からある人や買った人のものとな

り、つまりそれ以外の人は土地を利用することはできなくなるわけですよ。分

けて、どこがだれのものだという議論がはじまると、それまでの状況からまったくかわるわけですよ。

**岩谷** イギリス植民地政府が効率的に税を取りたかったからなんです。だから所有者は誰だということをはつきりさせた。

**黒川** だから基本的な対立ですよ。知的所有権だつて、印刷されたり録音されたり書かれなければ権利は発生しない。そもそも権利というのは一体何かという感じですよ。

**小西** 芸能もそうですね。録音されたり映像に残されたりして販売されます。そこから権利が発生しますけど、もともとは大勢の前で芸能を披露して、その場をとりまく利他的なオーラを楽しむものだった。フォークソングなども、CD化されたらすると、その演奏者や歌い手が権威をもったりするようになった。

**岩谷** オリジナルだのコピーだのつて。  
**小西** それが問題になってくる。そうすると、マインガニヤールなども自分たちのCDを出したりDVDを出したりするようにになり、今まで神話語りを行ったり儀礼の際に重要な役割を果たしていたマインガニヤールがいなくなってしまう。

逆に、フランスで公演したり、デリーのスタジオで録音したりする若手が増えてきた。

**黒川** 日本での公演や録音をきくと、なんだかエッセンスがおちてしまつて、外

形だけが残っているような感じをうけましたね。

**小西** 完全に形骸化してきているというか、儀礼的に重要な意味も完全に捨てられるという流れが、今起きている。僕が神話語りや歴史に関する情報を集める時には、かなりの高齢のお爺さんばかりに話を聞くという状況がある。残っていないんです。

**岩谷** ポリウッド映画の音楽もトルコの音楽をパクってきたりとかしていて、パクリの伝統はインドのお家芸なんです。

**小西** バクリは多いですね。

**岩谷** うまいのよ、また。  
**小西** ストーリーもハリウッドのパクリが多すぎますね。

**岩谷** そういう文化は私けっこう好きなんですけど。国際的にはね……

**黒川** 薬草なんかで問題になるのは、結局はパテントをとった人しか使えない。

**岩谷** それは海外の基準が入った段階でなるけど、インド国内でだったらわりと受容されているのかなと思う。

**小西** 最近はそういう知的所有権の問題は重要視されている。敏感になってきています。製薬会社側の対応としても。村に行つて、薬草に関する情報収集して、持ち帰つてそれを分析して、自分たちが薬を作つて大量に儲けましたというやり方はもう通らないような世界になってきている。

**岩谷** かなり被害が出たからでしょ。アメリカとか。



シツタ薬を作るヴァギリ



デリー近郊のNOIDA地区（正確にはウツタル・プラデーシュ州に属す）にあるショッピングセンター。

**小西** すごい被害が出ましたね。パンジヤープでも米の品種の問題で訴訟が起つたりしている。今はバイオテクノロジーが重要視されています。

**黒川** 種を買わなきゃいけないというのがね。ハイブリッド種がよいといわれて、収穫は増えても、自分とところで種を生産できない。つねに買い続けなければいけないというのは問題ですね。

**岩谷** 化学もインドは次に担いますよね。ジェネリック薬品とか。

**小西** 眼の医療に関してもすごく有名なところがありますよね。世界中から患者が来ていると聞きます。

**黒川** 癌の治療も有名ですね。

**小西** インドの医療技術は今後、より注目されると思います。

**黒川** でも私の友人ラマチャンドラさんは歯の治療で菌に感染したとか言っていたけど。

**小西** ローカルな場における医療と、世

界に通用する先進的医療とは完全に乖離している。ギャップは広がっています。

**岩谷** インドでは病気でいろいろお世話になりました。インドの薬はとも強いんですよ。風邪薬とかも日本だったら副作用を考慮して弱めなのを出すんですけど、全然考えてないんで、ピンクとかすごい色の薬を出す。

**小西** そして大きい。日本の薬の2倍ぐらいある。だから半分に分けて服用してました。胃が荒れてしまう。

**岩谷** でもすぐ治るんですよ。

**小西** 早い。たしかに早い。便秘なんか一気に解消します。

——それは伝統的医療の薬なんですか。

**小西** 西洋医学の薬です。

**岩谷** でも伝統的なものを利用したのいまはある。インドの場合植物の原料がいっぱいあるんで、それを利用して。

**小西** 伝統的にアーユルヴェーダなどの伝統医療的な基盤があったから、すぐに

受容されたんでしょうね。

**岩谷** 理数系強いしね。

**小西** 今後のインドの発展ぶりは恐ろしいです。たとえばメディカルツーリズム

とって、イギリスから、手に負えなくなつた患者達が大量してインドに来て

**岩谷** 安いしね。

**小西** 難病なんかも治している。インド村落でみることでできる世界と最先端の世界とがあまりにも乖離していて、これが本

当に同じインドなんだろうかとも思います。

**黒川** やつぱり一つの世界だからどつかの犠牲のうえに成り立っているんだろうね。

**岩谷** そうですよ。今は尖端ばかりに注目が

行つて、いかにもインドがぎらびやかみたい

に映っているんですけど、実際はそうじゃないよね。

**黒川** だって川なんかどうするの？もう垂れ流しじゃない。

**小西** 衛生状態も悪いですもんね。川の周辺にはスラム街が広がっている。

**黒川** 人間扱いじゃないもんね。

**岩谷** この間もヴァギリの居住していたところが突然全部取り壊されたんですよ。そういうことも普通に起こるし。

があるということですよ。

**岩谷** 警察とかも当てにならないものね。

**小西** 光り輝く部分ばかりがピックアップ

されています。

**都市化で消えてゆくもの**

**岩谷** よつぽど大変化してるのかなと思

つて、9月に行つてみたんです。大して変わってない。(笑)

**小西** 目に見えないところなんですよ。都市のインフラがちやんと整備されているかとい

つた。それも整備されていないんです。停電もすごいし。インターネットカフェに行つても遅くてつながら

ない。なにかIT大国だ、と怒りたくなります。

ただでデリーのノイダ(NOIDA)やグルガオン(GURGAON)エリアには、世界でもトップクラスのブレインが集ま

つていたりする。

**黒川** 最初びつくりしたのは、デリー市郊外のグルガオン

っていうところを新たに開発して企業を誘致しているのに、それぞれの事務所や工場が自前で発電機を常にまわして稼働しているんですよ。





デリー南部の住宅街の風景。2005年撮影。この頃は、まだ街角にたくさん牛があふれていた。

ターをおいて重油を使って煙ががんぐん出してまわっている。ひどかったです。  
**小西** 電力供給がものすごく不安定ですから。デリーで変圧器を買って使っていました。針の振れ幅がすごいです。一定しない。パソコンが壊れます。  
**岩谷** チェンナイはそんなことないけど。  
**黒川** チェンナイは停電は多いけど、電圧は安定している。デリーは電圧がものすごく不安定だよ。

時に、彼らはインフラに全然投資しないんだって。いつでも形勢が悪くなったらすぐに引き上げられるように。一番めだつたのが車のローンでしたね。つまり車ごと車が増えたよね。でもそのお金が国の基盤整備に行くかというところが全然行かない。車を見るとすごく暗い気分になるとかある人が言っていました。  
**岩谷** 個人消費にばかりいつているということですよ。  
**黒川** 車を持つ人、増えたもんね。一家に二台とか三台とか。金持ちじゃなくても。

搾ったりしてればいいんですけど、野良牛が多いんです。  
**黒川** 野良牛も飼い主はいるんじゃない？  
**小西** いるんだけど。一掃されてしまった。ちゃんと管理しろということでしょう。  
**黒川** でもちゃんとした柵なんか持つていない人はいないでしょ。  
**小西** いないでしょうね。  
**黒川** 綱でつないでおくのかな。「うちの牛ですよ」という感じで。それにしてもデリーの高級住宅地のデیفエンスコロニーなんかだつて、牛がいつぱいいたのに。

なりましたね。びっくりすると同時に、がっかりしましたよ。そこら中に牛がいるのが最高でした。あんな首都はないですよ、世界に。  
**岩谷** 誇りに思うべきですよ。でもやっぱり邪魔だったんでしょね。  
**小西** 邪魔です。(笑) 交通渋滞を起しますから。でもそんな渋滞も気にせず生きていくインド人がかっこよかったです。渋滞を不快に思うインド人が出てきたのは残念です。「牛のせいで遅れちゃったよ」というのが許された時代から、許されない時代になった。  
**岩谷** 寂しいな。

(取材・構成 池田康)

アンバサダーインドの国章のしかなかったのに。渋滞もなかったし。  
**小西** 牛がいなくなつたんですよ、デリーから。一掃されたんです。  
**黒川** どうやってそれができるの？よく許したね。  
**小西** 囲い込みを行った。人々が野良牛を一頭引つ張ってくる度に何百ルピーを支払ったり。それを全部郊外にある柵の中に入れて、自分の牛がいなくなったという奴は取りに来いと。そういう方法をとつたんです。  
**岩谷** あれ、放し飼いだつたんですか？  
**小西** ほつたらかしでしょう。  
**岩谷** 飼い主はいたんでしょ。  
**黒川** いるいる。ミルクをとるから。  
**小西** 自分の家の中で飼つたり乳を

インド・ネパール・アフガニスタン・バリなどなどからはるばるやってきた衣料品・織物・アクセサリー・楽器・CD・DVD.... が皆様をお待ちしております



<http://www.harubaruya.com/>

180-0004 武蔵野市吉祥寺本町 1-8-3 コスモビル 2階

Phone & Fax. 0422-21-4790

渋谷アマリタ Phone & Fax. 03-3461-6563

吉祥寺別館 Phone & Fax 0422-22-2433

☆はるばる屋通信☆

★今月末より春物衣料品が入荷いたします★

★吉祥寺別館は、無休にいたしました★

★インド映画、舞踊、音楽のDVD★

続々入荷しております。

ベリーダンス、インド舞踊のイベントに商品を持って参加いたします。ご連絡ください。

ネットでのお買物もお楽しみください！